

2024年3月吉日

各地域スポーツ団体等（クラブA） 代表者 様

岐阜県ソフトテニス連盟
中学専門部委員長 長谷川 泰朗

令和6年度地域スポーツ団体等（クラブA）の大会参加について

1. **クラブAの代表者**は、日本ソフトテニス連盟HPから「【様式2】新規団体作成申請書」を、岐阜県ソフトテニス連盟HPから「【中学部】地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）登録申込書」をダウンロードする。
2. **クラブAの代表者**は、**岐阜県ソフトテニス連盟**に「【様式2】新規団体作成申請書」を提出する。
3. **クラブAの代表者**は、**岐阜県ソフトテニス連盟中学部委員長**に「【中学部】地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）登録申込書」を提出する。
※岐阜県ソフトテニス連盟中学部委員長：gifuareatennis@yahoo.co.jp
4. **岐阜県ソフトテニス連盟中学部委員長**は、**岐阜県ソフトテニス連盟**と**所属地区の委員長**へ「地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）登録申込書」を提出する。
5. **クラブAの代表者**は、所属地区連盟もしくは所属地区の委員長と連絡を取り、「地区大会の要項」、「地区大会申込書」を入手する。
申込書に必要事項を記入し、期日までに**所属地区の委員長**へ送信する。
6. 地区大会終了後、**所属地区の委員長**は、「県大会エントリー用紙」に「部活動・クラブA」からの県大会出場者を記入し、申し込み期日までに**岐阜県ソフトテニス連盟中学部専門委員長**へ提出する。
7. 岐阜県ソフトテニス連盟中学専門部は、「部活動・クラブA」「クラブB」の結果を合わせて、ドロー編成会議を行い、大会を開催する。

【出場枠】

1. 令和6年度は令和5年度と同様とする。
2. 令和7年度からは中学校部活動・クラブとしての区分けはせず、活動地域として登録された地域から一緒に地区予選から出場する。

【クラブ所属の制限について】

1. クラブ所属の制限
どのクラブで活動するかは制限しない。
2. 所属の移動
期間の限定はしない（年度途中の移籍を認める）

【異なるクラブ選手とのペアについて】

現行の中学部活動による参加方法とは異なり、他クラブとの合同チームは認めない。

2024年3月吉日

各地域スポーツ団体等（クラブA）代表者 様

岐阜県ソフトテニス連盟
中学専門部委員長 長谷川 泰朗

令和6年度日本ソフトテニス連盟および岐阜県ソフトテニス連盟への登録について（依頼）

早春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素は当連盟の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、標記につきまして下記にありますように登録を行っていただきますようお願い申し上げます。**特に登録の方法について変更がありますので、別紙「③会員登録システムについて」をご熟読の上対応をお願いします。**

なお、登録がない場合はソフトテニス連盟主催の大会・研修会等に参加できないことがありますので、予めご注意ください。

記

1 手続きの方法

- (1) 「日本ソフトテニス連盟HP」の「会員登録システム」にログインする。
- (2) 新1年生分を新規登録する。
- (3) **小学生時代に登録してあった選手は、登録申請の『再登録』となる。**
小学校時代の会員IDで登録する。
- (4) 新1～3年生分の登録金（1000円×人数）を日本ソフトテニス連盟HPの指示に従って、入金する。※コンビニ等で支払可。
- (5) 新1年生分も含め、**5月末日までに登録、振込**を完了する。
※男女別にして、登録及び入金をしてください。
- (6) 注意事項
 - ① **必ず4月1日以降に**手続きを行って下さい。二重登録の原因となります。
 - ② **「加盟団体名」は「岐阜県中学専門部」**にしてください。
※「〇〇地区」を選択すると一般のクラブチーム扱いとなってしまいます。
 - ③ **会員カードの配布は廃止となりました。**
過去に配布された会員カードは、今年度もそのまま使用します。

○登録してある学校名が「〇〇中学校 男子（女子）」となっているか確認をしてください。なっていない場合は日本ソフトテニス連盟HPから変更をお願いします。（男女別で登録確認および報告をしなくてはならないため。）

○異動等で顧問が替わる場合は、**登録方法(パスワード等)を確実に次の顧問へ引き継いでください。**

◆登録金のまとめ◆

登録先	登録の種類	手続きの方法
日本ソフトテニス連盟	個人登録1人500円	インターネット (日本ソフトテニス連盟HP)
岐阜県ソフトテニス連盟中学部	団体登録1人500円	
1人1000円（日本連盟500円+県連中学部500円）を日本連盟に振り込む。		

イエローカード ガイドライン

サイドコーチについて

- ・団体戦については、監督(当該校の校長・教員)又は外部指導者(コーチ)1名のベンチ入りを認める。
*個人戦については、大会によって異なる。

競技規則第38条(1)について

- ・ベンチ入りした監督、又はコーチが、ゲーム中に助言した場合。
→ 警告(イエローカード)
*選手が振りむいて話を聞いている動作は「助言」。もちろん、選手が「返事」ととれる行動をしている場合も「助言」。
→ 警告(イエローカード)

競技規則第38条(2)について

- ・監督またはコーチからの助言が許容時間内(チェンジサイズ、ファイナルゲーム前の1分間)で行われない場合。
→ 警告(イエローカード)
☆助言と励ましの違いとは?
- ・助言・・・打ち方やコース、攻め方の指示。相手選手に影響のある言動。
例：そこに打つな。ぶつけろ!! ロブを使え。シュートで勝負。後衛勝負だ!! 等
- ・励まし・・・戦術に関わらない選手を励ます言動。
例：気持ちを強く。ここ一本だ!! 足を動かせ!! 先行!!
*ただし、相手ペアが自分側サイドの時は、相手選手への威圧と判断することもある。
- ・ベンチ入りしている監督またはコーチ以外からの助言
→ 警告(イエローカード)
***観客からの発声について**
- ・助言にあたりと感じた時
→ 1回目はベンチの監督またはコーチに注意を促し、2回目は本部から注意
*2回目の場合、アンパイヤーは、レフェリーに相談し、本部から観客に対して注意。

競技規則第38条(3)について

- ・所定の位置以外での助言。
→ 警告(イエローカード)
- ・マッチ中に監督がベンチを立つ。
→ 警告(イエローカード)
例：ボールを拾いにいく、チェンジサイズの時に立って選手を出迎え、立ちながら指示。
*選手をベンチに座らせ、監督がしゃがんで指示を出すことはよい。

競技規則第40条の違反

- ・プレーヤー(団体戦の場合、監督、コーチも含む)の質問は認める。
- ・ボールの痕跡を指で差す、ラケットを置くなどの行為は解説17の2違反。
→ 警告(イエローカード)
- ・ボールの痕跡を消した場合。
→ 警告(イエローカード) & インターフェアとなり、失ポイント。
*ボールの痕跡は必ずアンパイヤーが確認し、プレーヤー(監督、コーチも含む)を近づかせない。
- ・ボールの落下点を確認するためにネットを越えた場合。
→ 警告(イエローカード)
- ・再判定に対する質問は「異議」。
→ 警告(イエローカード)
- ・同じ質問を2回。(選手と監督で1回ずつでも合計2回となる)
→ 警告(イエローカード)

競技規則第46条の違反

- ・『ヒートルール』（会場の気温が35℃以上になり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰（アンパイアの目の届く範囲）での休憩を許可する。
第15条（2）の1分間（ファイナルゲーム前のアドバイスを受ける1分）を含むので、3分後に次のプレーの準備ができていない場合。（アドバイスを受けることができるのは、最初の1分とする。）
→ レッツプレー
*それでも動かない場合 → 警告（イエローカード）

遅延行為について

- ・相手の準備が整っている中で、パートナー同士が打ち合わせをしている場合。
→ レッツプレー（毎回コールしていく）
*それでも動かない場合 → 警告（イエローカード）
- ・タイムの許可を取らないプレーの中断
→ レッツプレー
*それでもプレーをしない場合
→ 警告（イエローカード）
例：靴のひもをほどいて縛り直すなど
- ・団体戦の始まる前に、相手チームのエールを待つ場合
→ 待たないように指示する。
- ・「レディ」の後、監督のアドバイスをもらいに行ったり、服を脱いだり、給水をしたりしてすぐに試合のできる位置につかない。
→ レッツプレー
*それでもプレーをしない場合
→ 警告（イエローカード）

審判規則第19条(注意の喚起)

- ・応援については、相手を不快にさせず過度にならない（アンパイヤーのコールやプレーに支障がない）ように注意する。
→ 過度の応援で不快となった、プレーに支障があるとアンパイヤーが判断した場合、正審が監督を通して応援団を注意する。
→ それでも改善されない場合、レフェリーに連絡し、大会委員長に対処を依頼する。
*大会委員長は、大会運営上支障があると認められる場合は、関係者（応援団を含む）に注意を喚起し、あるいは退場させることができる。
*アンパイヤー → レフェリー → 大会委員長 の順で連絡をとり、対応する。

競技規則第37条(タイム)

- ・プレーヤーがタイムを取る場合は次の通りとする。
①プレーヤーに身体上の故障が生じた場合。
*一人5分、2回まで。（連続して取る場合、1回目の計時から連続させる）
この場合、正審に許可を得た上で、誰が処置をしてもよいこととする。
（中学専門部として、選手の健康管理のため上記の内容を認めることとする）
②正審が認めた場合 *このタイムは、回数に入れない。
例：コンタクトレンズが動いた場合や眼鏡を拭く場合など。

競技規則第42条(失格)

- ・出場の通告を受けたプレイヤーが集合しない場合。
 - *放送があっても集合しない
 - 5分ごとに「警告」、15分で「失格」
 - *集合までに警告を受けた場合、その警告はマッチ中有効となる。
 - *アンパイヤー → 進行委員とレフェリーと連携を取り、できる限り「失格」を防ぐ。

「警告」が3回目に及んだ場合

- ・「警告」が3回目になる場合には、下記の順に連絡をとり、対応する。
 - *集合までに警告を受けた場合、その警告はマッチ中有効となる。
 - *アンパイヤー → レフェリー → 競技委員長と協議 → レッドカードはレフェリーから出す。

団体戦での応援

- ・団体戦において、選手がベンチから立ち上がっての応援。
 - 警告 (イエローカード)

その他

- ・監督 (コーチ) は服装 (スポーツシャツを着用) やマナーに気をつける。
- ・ゼッケンは安全ピンでとめることも可とするが華美なものは避ける。

問題なしのケース

- ・ゲームが変わった時、サーバーの順番を変える。
- ・ゲームが変わった時、レシーバーの順番を変える。
- ・ゲームの第1ポイントで、ライトサービスコートに入ったサービスを左側にいるパートナーがレシーブをする。それ以降のレシーブの順番が正しければ問題ない。
- ・ファイナルゲームで、1、2ポイント目にサービスを行っていないプレイヤーが、3ポイント目のレシーブを行う。

フェアプレイの精神

- ・マナーブック参照。

服装・ゼッケン規定

※教育活動の一環として、以下のように規定を定めます。規定違反の場合は、大会参加が認められないこともありますので、ご熟読の上ご対応ください。ご理解とご協力をお願い致します。

今年度の変更点を黄色で示してあります。

1. 服装

(1) 選手

①ゲームウェア

上…半袖ゲームシャツ（襟なしでもよい）

ノースリーブやワンピースは認めない。

ドライTシャツは認めない。

下…膝より上のパンツ又はスカート

・服装は、華美にならないようにする。

・シャツをパンツやスカートから出してプレーしてもよい。また、シャツの袖をまくらない。

②テニスシューズ

・コート内は必ずテニスシューズを履くこと。

・色は自由。（ただし、左右で違う色のシューズや靴紐は不可。）

③ソックス

・色は自由。

④ゼッケン

・背中にゼッケンをつける。（「2. ゼッケン」参照）

⑤帽子等

・キャップ、サンバイザー、鉢巻きの着用を認める。

・特別な文言や記号を印刷または刺繍し、使用してはいけない。

・端の部分に「学校名・氏名」を記入してもよい。

・色は自由。

⑥その他

・選手の腕等へのペイント、文字の書き込み、装飾品（ミサンガ、磁気ネックレス等）は禁止する。

・音の出る道具を利用した応援は禁止とする。

・うちは、ベンチにいる者が、ベンチに戻った選手を仰ぐためだけに使用することができる。

・ガットは、単色であること。縦と横を違う色で張り分けることは認めない。

・サポーターやテーピング、熱中症や紫外線対策等としての長袖アンダーシャツやロングアンダータイツ等の使用を認める。その色は、白・黒・ベージュの単色とする。

(2) 監督・外部指導者（コーチ）

ベンチ入り及び開会式・閉会式・表彰式では次のとおりとする。

①スポーツシャツを着用する。

②テニスシューズを着用する。ただし、体育館では内履きに履きかえる。

③帽子はキャップ形態のものとする。（麦わら帽子、ハット形態の帽子は不可）

2. ゼッケン

(1) サイズ等

- ・ B 5 版横（白地）サイズの布

(2) 文字

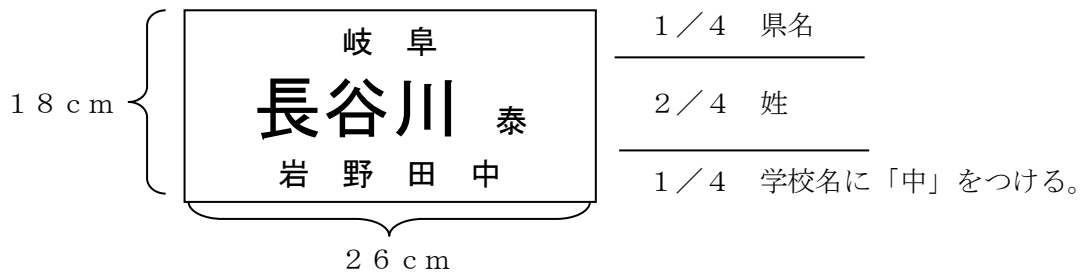
- ・ ゼッケンの文字は「漢字」「ひらがな」「カタカナ」を使用し、文字は「黒」。
- ・ シャツそのものへのプリントは認めない。
- ・ 背中にプリントされた文字がある場合は、文字が隠れるようにゼッケンをつける。
- ・ 字体は、標準のゴシック体を推奨する。（今後、指定される可能性がある。）

(3) 文字の位置

背中^のゼッケン^の文字^の位置^は、下図^{《ゼッケン例》}の通り。

- ・ 上段 1 / 4 に県名、中段 2 / 4 に個人名（姓のみ）、下段 1 / 4 には、学校名。
- ・ 県名には「県」を付けない。
- ・ 同一校に同じ姓の選手がいる場合は、一文字付け加える。
※同姓同名の場合は、違う一文字を付けることで区別ができるようにすること。
- ・ 校名には中学校の「中」を付ける。
※校名が第一、第二、東、西、南、北、中央のような場合、学校所在地を付記しても良い
例：「岐阜市立 第二 中学校」→「岐阜第二中」など（ただし、略称は認めない。）

《ゼッケン例》岐阜県 岐阜市立 岩野田中学校 長谷川 泰朗



(4) 取り付け

- ・ 脱着に都合の良いように安全ピン、スナップボタン、ゼッケンホック、マジックテープで留めてもよい。必ず四隅を止めること。
- ※メーカーが販売しているゼッケン止めを使用してもよい。ただし、4隅の色が変わらないように1色で統一すること。

(5) その他

- ・ 東海大会、全国大会で使用していた監督、コーチのゼッケンは廃止となり、着用しなくてよい。

申し合わせ事項

※中学生の県大会（連盟・中体連の主催）では、下記事項も考慮して大会を行います。
※「イエローカードガイドライン」と併せてご熟読ください。

地域スポーツ団体等(クラブA、B)について

【クラブA】 市町及び教育委員会が運動部活動の地域移行に関わり、取組を進めている団体
※この団体はクラブBとして申請することも可とする。（重複申請不可）

【クラブB】 クラブA以外のすべての地域スポーツ団体

【部活動（保護者クラブ）】および【クラブA】

市・郡大会や地区大会（スタート大会）から参加する。

【大会への申し込み】

部活動（保護者クラブ）は、従来通り部活動顧問が行う。

クラブAは、各クラブ代表者が行う。（所属地区の連盟または所属地区の専門委員長と連絡を取ること）

【クラブB】

県中体連7番目の地区としてクラブ地区大会へ参加する。

【大会への申し込み】

各クラブ代表者が行う。（クラブ地区の専門委員長と連絡を取ること）

地域クラブ活動の参加特例における競技部細則(中体連)について

全国中学校体育大会夏季大会（中体連全国大会）に参加する場合は、地域クラブ活動は、必ず（公財）日本スポーツ協会公認の「コーチ1」以上の資格を有する者が在籍しており、大会においてベンチ入りするものはその資格保有者であること。（ただし、当該年度は取得中の者でも可とする。）

サイドコーチについて

- ・団体戦を2面同時展開で行う場合は、ベンチを中央に置き、監督（コーチ）は両コート間の中央でアドバイスをする。ただし、1試合が残った時点でベンチはそのコートへ移動する。

個人戦で2ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合

- ・隣接するコートであれば、選手は監督（コーチ）の助言を聞きに行くことができる。コートが離れている場合は、監督（コーチ）がベンチを移動して助言することもできる。ただし、1度離れたベンチには再び戻ることはできない。

競技規則第15条(1)「過度のかけ声・相手を不快にする発声」について

- ・対面する自チームの応援団へのガッツポーズ → 1回目注意・2回目警告（イエローカード）

競技規則第38条(2)

☆助言許容時間について

- ・正審の「ゲーム」のコール後、副審はストップウォッチで計測し、45秒たったらホイッスルをならし、正審は「レッツプレー」とコールする。
 - *1分が経過してもベンチにいる、その後もペアで相談している → 警告(イエローカード)
- ・ただし、熱中症対策のため、チェンジサービス時にも審判台の横でのみ給水を認める。その際のコーチングは認めない。

競技規則第46条(ヒートルール)

会場での気温が35℃以上となり、ファイナルゲームとなった場合、ファイナルゲームに入る前に3分間のコート内の日傘による日陰(アンパイアの目の届く範囲)での休憩を許可する。なお、3分間については、第15条(2)の1分間を含むものとする。アドバイスを受けることができるのは、最初の1分間とする。

団体戦での応援

- ・アップのためにベンチから立ち上がるのはよいが、その場合応援しない。また、チェンジサイズなどのアドバイスの時は、立ち上がるのはよい。

その他

- ・マッチ中にコート内での通信機器等の使用はしない。
- ・監督(コーチ)は傘(日傘を含む。銀傘は不可。)の持ち込みと使用を認める。
- ・エール交換は両チームが同時に行う。

各中学校ソフトテニス部顧問・監督・コーチの方々へ 「フェアプレイ」遵守について（確認）

岐阜県ソフトテニス連盟中学部

日頃からソフトテニスの活動を通して、生徒たちの健全育成にご尽力いただき、誠にありがとうございます。さて、ソフトテニスを通して生徒の人格形成を促し、競技力の向上、またソフトテニスハンドブックを遵守し、これに則った競技を円滑に行うため、ソフトテニスのマナーアップについて、次の通り周知徹底をお願いいたします。

今一度ここで下記についてご確認の上、本件の趣旨を汲み取っていただき、ソフトテニスの発展と、選手のさらなる人間的成長へとつなげていただければと思います。

確認① そもそも、スポーツを楽しむために必要な4つの事。

- ①ルールを守ること ②対戦相手を尊重すること ③勝負にこだわること（勝利を目指して全力を尽くす）
 - ④審判に感謝すること
- 抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

確認② スポーツに欠かせない、2つのフェアプレイの意味

- ①行動としてのフェアプレイ
 - ルールと対戦相手と審判の尊重
 - 勝ってもおごらず、負けてもふてくされない
- ②フェアプレイ精神（フェアな心「魂」）
 - 善い事か、悪い事かを自分の意思で決めること
 - 恥ずかしくない判断ができる心

抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

そこで、具体的な行動として

あくしゅ、あいさつ、ありがとう！

抜粋：日本体育協会「フェアプレイリーフレット」

を、推奨してまいります。

岐阜県の中学生ソフトテニス競技では、以上のことをふまえ、競技中の応援・声援等はもちろん、会場におけるすべての行動において、「フェアプレイ」に関する内容を遵守し、自他ともに敬い、プレーすることを目指しています。試合後の挨拶では、選手・監督の握手を行います。

また本趣旨をふまえ、岐阜県中学生ソフトテニス競技での「応援」とは、自分や仲間に対して行うことを指しています。自分や仲間のこれまでの努力の成果としての得点に喜びを表す応援を行います。相手のミスや失敗に対して歓喜、誇張したり、他者の尊厳そのものを傷つけたりする応援はあり得ません。以下の「応援の運用例 Q&A集」をご参照ください。以上について、ご不明な点があれば、岐阜県ソフトテニス連盟中学部の地区委員長の先生、または中体連ソフトテニス競技専門部の先生にお尋ねください。

岐阜県ソフトテニス連盟中学部の定める「応援」の「運用例」Q&A集

Q1・どのような時に、応援はできるのですか？

A・ポイントが決まり、サービスを行う体勢に入る前まで
サービスの体勢に入ってから、ポイントが決まるまでの間は応援できません。また、「いいぞ」「ナイスボール」「その調子」などの声もプレー中は認められません。選手の集中を妨げるため、インプレー中は一切声を出さないようにしましょう。

Q2・どのような内容の応援が望ましいでしょうか？

A・大会や試合は、それまで一生懸命練習して、できた事を認めてあげる発表の場です。
よくやった！できるようになった！努力した道のりがすばらしい！と、これまでの過程を含めて賞賛するように考えてみられるといいですね。
選手が、自分自身に対して「よし！できた！」と、ガッツポーズをしたりすることには、問題ありません。

Q3・では、逆にどのような内容の応援は避けるべきでしょうか？

A・対戦相手も大会や試合のために、努力してきています。ですから、相手の失敗を喜んだり、そのことを大げさに言い表したり、ましては相手に対してガッツポーズをしたりするべきではありません。
以下に、最近の大会で見られた「避けるべき」応援の内容について、例を挙げておきますので、参考にしてください。

相手が失ポイントした場合に

- ▲「相手に対して、ガッツポーズ」
- ▲「もうけた」「デカイ」「おおきい」「ありがとう」などの発言
- ▲「ネット近くまで、相手につめよる」
- ▲必要以上の「ラッキー」 など

ただ、言葉は時間や場所に変化していきますから、一概に「これはよい。これはいけない。」と区分することには限界があります。先生方が「フェアプレイ」「応援」に対してより深く理解され、現場で活用されていくことが必要です。ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、上記のような発言があった場合、現段階では即刻イエローカードが出るわけではありません。審判から注意があり、その後も続くようであればイエローカードが出されます。フェアプレイの精神を養うためのマナーと理解して、生徒への指導・徹底をお願いいたします。